

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年11月8日

【四半期会計期間】 第144期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 旭コンクリート工業株式会社

【英訳名】 Asahi Concrete Works Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 狩野 堅太郎

【本店の所在の場所】 東京都中央区築地1丁目8番2号

【電話番号】 03(3542)1201(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 馬島 英希

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区築地1丁目8番2号

【電話番号】 03(3542)1201(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 馬島 英希

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第143期 第2四半期累計期間	第144期 第2四半期累計期間	第143期
会計期間		自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高	(千円)	3,001,857	3,257,843	6,584,391
経常利益	(千円)	192,657	295,051	430,801
四半期(当期)純利益	(千円)	139,815	229,007	311,581
持分法を適用した 場合の投資利益	(千円)			
資本金	(千円)	1,204,900	1,204,900	1,204,900
発行済株式総数	(株)	13,233,000	13,233,000	13,233,000
純資産額	(千円)	10,068,985	10,666,459	10,365,732
総資産額	(千円)	12,757,154	13,636,195	13,480,011
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	10.63	17.42	23.70
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
1株当たり配当額	(円)			13.00
自己資本比率	(%)	78.9	78.2	76.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	643,411	49,362	740,075
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	120,487	37,512	352,052
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	180,693	180,145	191,824
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	2,548,466	2,309,163	2,402,434

回次		第143期 第2四半期会計期間	第144期 第2四半期会計期間
会計期間		自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	3.78	12.82

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 持分法を適用した場合の投資利益につきましては、関連会社がないため記載を省略しております。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。  
また、関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染症対策が5類感染症へ移行し、経済・社会活動の正常化が進み、穏やかに回復しました。

一方、原材料価格の高止まりによる物価上昇、世界的な金融引き締めによる景気後退への懸念などから、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社は受注に繋げる設計織込活動、工期短縮に資するプレキャスト化提案などに鋭意取り組みました。

その結果、当第2四半期累計期間は、売上高は32億5千7百万円（前年同四半期は30億1百万円）と前年同四半期に比べ増加いたしました。また損益面では、営業利益2億3千9百万円（前同四半期は1億3千7百万円）、経常利益2億9千5百万円（前同四半期は1億9千2百万円）と、それぞれ前年同四半期に比べ増益となりました。

これに特別損益を差し引きし税金費用等1億3百万円を控除した結果、四半期純利益は2億2千9百万円（前年同四半期は1億3千9百万円）となりました。

セグメント別の経営成績を示すと、次のとおりであります。

#### （コンクリート関連事業）

コンクリート関連事業は、売上高は32億3千4百万円（前年同四半期は29億7千7百万円）、セグメント利益は2億5千6百万円（前年同四半期は1億4千9百万円）となりました。

コンクリート二次製品部門は、売上高は20億2千3百万円（前年同四半期は18億1千8百万円）となりました。

工事部門は、売上高は2億2千万円（前年同四半期は1億9千6百万円）となりました。

その他の部門は、工事用資材及びコンクリート製品に装着する資材等の仕入及び販売で、売上高は9億9千1百万円（前年同四半期は9億6千1百万円）となりました。

#### （不動産事業）

不動産事業は当社が保有するマンション等の賃貸収入で、売上高は2千3百万円（前年同四半期は2千4百万円）、セグメント利益は9百万円（前年同四半期は1千2百万円）となりました。

財政状態は、次のとおりであります。

(資産)

当第2四半期会計期間末における総資産は136億3千6百万円(前事業年度末に比べ1億5千6百万円増加)となりました。流動資産は前事業年度末に比べ7千2百万円減少し、85億8千万円となり、固定資産は前事業年度末に比べ2億2千9百万円増加して50億5千万円になりました。流動資産の主な減少は、現金及び預金の減少9千3百万円となっております。固定資産の主な増加は、関係会社株式の時価評価による増加1億7千7百万円でありま

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債は29億6千9百万円(前事業年度末に比べ1億4千4百万円減少)となりました。流動負債は前事業年度末に比べ2億6千4百万円減少し、21億2千2百万円となり、固定負債は前事業年度末に比べ1億2千万円増加し、8億4千7百万円となりました。流動負債の主な減少は、仕入債務の減少2億7千3百万円であります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は106億6千6百万円(前事業年度末に比べ3億円増加)となりました。主な増加は、その他有価証券評価差額金の増加2億4千2百万円となっております。その結果、自己資本比率は78.2%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は前事業年度末に比べ、9千3百万円減少(前年同四半期は3億4千2百万円の増加)し、当第2四半期末残高は23億9百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動における資金収支は、税引前四半期純利益3億3千2百万円、減価償却費1億8百万円等の資金の増加が、仕入債務の減少2億4千9百万円等の資金の減少を上回ったことにより、資金の増加は4千9百万円(前年同四半期は6億4千3百万円の増加)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動における資金収支は、投資有価証券の売却による収入1億5千7百万円等の資金の増加が、有形固定資産の取得による支出1億2千万円等の資金の減少を上回ったことにより、資金の増加は3千7百万円(前年同四半期は1億2千万円の減少)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動における資金収支は、配当金の支払額1億6千9百万円等により、資金の減少は1億8千万円(前年同四半期は1億8千万円の減少)となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

記載すべき事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年11月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	13,233,000	13,233,000	東京証券取引 所 スタンダード 市場	単元株式数は100株単位であり ます。
計	13,233,000	13,233,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日		13,233,000		1,204,900		819,054

## (5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (百株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本ヒューム株式会社	東京都港区新橋5-33-11	39,042	29.70
太平洋セメント株式会社	東京都文京区小石川1-1-1	12,075	9.18
みずほ信託銀行株式会社退職給 付信託太平洋セメント口	東京都中央区晴海1-8-12	7,000	5.32
柳内光子	東京都江戸川区	6,973	5.30
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1-5-5	6,450	4.91
山一産協株式会社	東京都中央区日本橋人形町1-12-11	5,023	3.82
高周波熱錬株式会社	東京都品川区東五反田2-17-1	5,017	3.82
日本コンクリート工業株式会社	東京都港区芝浦4-6-14	3,000	2.28
ケイコン株式会社	京都府京都市伏見区淀本町225	2,950	2.24
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1-6-1	2,322	1.77
計		89,852	68.34

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 85,600		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,139,800	131,398	同上
単元未満株式	普通株式 7,600		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	13,233,000		
総株主の議決権		131,398	

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式1,000株(議決権10個)が含まれております。
2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式32株が含まれております。

## 【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 旭コンクリート工業株式 会社	東京都中央区築地1-8-2	85,600		85,600	0.65
計		85,600		85,600	0.65

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、新創監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。



## 1 【四半期財務諸表】

## (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,887,434	4,794,163
受取手形及び売掛金	1,920,142	1,531,144
電子記録債権	698,986	1,047,473
製品	988,377	1,017,973
原材料及び貯蔵品	92,530	97,545
その他	65,683	92,433
流動資産合計	8,653,155	8,580,734
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	175,590	175,021
機械及び装置(純額)	178,965	182,680
土地	1,677,601	1,677,601
その他(純額)	370,340	354,998
有形固定資産合計	2,402,498	2,390,302
無形固定資産	75,277	73,394
投資その他の資産		
投資有価証券	991,360	1,047,230
関係会社株式	1,101,309	1,278,987
その他	255,839	265,713
貸倒引当金	5,621	5,586
投資その他の資産合計	2,342,888	2,586,345
固定資産合計	4,820,663	5,050,042
繰延資産		
社債発行費	6,191	5,417
繰延資産合計	6,191	5,417
資産合計	13,480,011	13,636,195
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	999,052	806,955
電子記録債務	859,737	778,276
短期借入金	200,000	200,000
未払法人税等	98,566	93,994
賞与引当金	102,706	68,909
その他	127,249	174,222
流動負債合計	2,387,311	2,122,357
固定負債		
社債	500,000	500,000
退職給付引当金	61,736	59,083
その他	165,231	288,294
固定負債合計	726,967	847,377
負債合計	3,114,279	2,969,735

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,204,900	1,204,900
資本剰余金	819,054	819,054
利益剰余金	8,066,533	8,124,624
自己株式	45,211	45,211
株主資本合計	10,045,276	10,103,367
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	320,455	563,092
評価・換算差額等合計	320,455	563,092
純資産合計	10,365,732	10,666,459
負債純資産合計	13,480,011	13,636,195

## (2) 【四半期損益計算書】

## 【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
売上高	3,001,857	3,257,843
売上原価	2,412,676	2,559,160
売上総利益	589,181	698,683
販売費及び一般管理費	1 451,732	1 459,038
営業利益	137,448	239,645
営業外収益		
受取利息	44	42
受取配当金	57,133	57,919
受取保険金		10,818
その他	2,527	1,515
営業外収益合計	59,706	70,297
営業外費用		
支払利息	985	1,010
支払保証料	1,002	1,002
社債発行費償却	774	774
その他	2 1,734	2 12,104
営業外費用合計	4,496	14,891
経常利益	192,657	295,051
特別利益		
投資有価証券売却益		41,088
特別利益合計		41,088
特別損失		
固定資産除却損	2,880	3,380
特別損失合計	2,880	3,380
税引前四半期純利益	189,777	332,759
法人税、住民税及び事業税	51,320	89,245
過年度法人税等	14,271	1,276
法人税等調整額	12,912	15,783
法人税等合計	49,961	103,752
四半期純利益	139,815	229,007

## (3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	189,777	332,759
減価償却費	107,058	108,863
退職給付引当金の増減額(は減少)	5,119	15,280
貸倒引当金の増減額(は減少)	40	35
賞与引当金の増減額(は減少)	24,064	33,797
役員賞与引当金の増減額(は減少)	13,500	13,500
受取利息及び受取配当金	57,178	57,962
支払利息及び支払保証料	1,988	2,013
社債発行費償却	774	774
投資有価証券売却損益(は益)		41,088
固定資産除却損	2,880	3,380
受取保険金		10,818
その他の営業外損益(は益)		10,426
売上債権の増減額(は増加)	1,352,574	40,511
棚卸資産の増減額(は増加)	184,863	34,611
その他の資産の増減額(は増加)	34,191	27,297
仕入債務の増減額(は減少)	731,268	249,148
未払消費税等の増減額(は減少)	10,089	43,767
その他の負債の増減額(は減少)	23,658	14,255
小計	618,396	73,211
利息及び配当金の受取額	47,956	49,085
利息及び保証料の支払額	1,982	1,879
法人税等の支払額	20,958	71,447
保険金の受取額		10,818
災害による損失の支払額		10,426
営業活動によるキャッシュ・フロー	643,411	49,362
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	2,485,000	2,485,000
定期預金の払戻による収入	2,485,000	2,485,000
有形固定資産の取得による支出	120,569	120,351
投資有価証券の売却による収入		157,261
その他	82	602
投資活動によるキャッシュ・フロー	120,487	37,512
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
リース債務の返済による支出	11,067	10,292
配当金の支払額	169,625	169,852
財務活動によるキャッシュ・フロー	180,693	180,145
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	342,230	93,270
現金及び現金同等物の期首残高	2,206,235	2,402,434
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,548,466	2,309,163

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

四半期会計期間末日満期手形等の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。なお、当第2四半期会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期会計期間末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
受取手形		27,707千円
電子記録債権		140,299千円
支払手形		100,500千円
電子記録債務		288,792千円

(四半期損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
支払手数料	29,844千円	30,524千円
給料	165,323千円	170,388千円
役員報酬	74,760千円	65,400千円
賞与引当金繰入額	28,473千円	27,681千円
退職給付費用	1,781千円	438千円
旅費交通費	21,659千円	21,661千円

2 営業外費用のその他における主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
工場休止費用	1,288千円	1,237千円
災害による修繕費用		10,426千円

売上高の季節的変動

前第2四半期累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)及び当第2四半期累計期間(自2023年4月1日至2023年9月30日)

当社の売上高は、通常の営業形態として、下半期に比べ上半期の売上高の割合が低く、上半期と下半期の業績に季節的変動があります。

## (四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金	5,033,466千円	4,794,163千円
預入期間が3か月を超える定期預金	2,485,000千円	2,485,000千円
現金及び現金同等物	2,548,466千円	2,309,163千円

## (株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	170,915	13.00	2022年3月31日	2022年6月30日

## 2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2023年6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	170,915	13.00	2023年3月31日	2023年6月30日

## 2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## (持分法損益等)

関連会社が存在しないため、記載しておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	コンクリート関連事業	不動産事業	
売上高			
一時点で移転される財	2,977,044		2,977,044
一定の期間にわたり移転される財			
顧客との契約から生じる収益	2,977,044		2,977,044
その他の収益		24,812	24,812
外部顧客への売上高	2,977,044	24,812	3,001,857
セグメント間の内部売上高 又は振替高			
計	2,977,044	24,812	3,001,857
セグメント利益	149,952	12,241	162,194

(注) 不動産事業における「その他の収益」は、リース取引による収益であります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	162,194
全社費用(注)	24,745
四半期損益計算書の営業利益	137,448

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

当第2四半期累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	コンクリート関連事業	不動産事業	
売上高			
一時点で移転される財	3,234,616		3,234,616
一定の期間にわたり移転される財			
顧客との契約から生じる収益	3,234,616		3,234,616
その他の収益		23,227	23,227
外部顧客への売上高	3,234,616	23,227	3,257,843
セグメント間の内部売上高 又は振替高			
計	3,234,616	23,227	3,257,843
セグメント利益	256,504	9,546	266,051

(注) 不動産事業における「その他の収益」は、リース取引による収益であります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	266,051
全社費用(注)	26,405
四半期損益計算書の営業利益	239,645

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。



## (1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は次のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1 株当たり四半期純利益(円)	10.63	17.42
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	139,815	229,007
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	139,815	229,007
普通株式の期中平均株式数(株)	13,147,368	13,147,368

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月7日

旭コンクリート工業株式会社  
取締役会 御中

新創監査法人  
東京都中央区

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 高橋 克典

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 松原 寛

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている旭コンクリート工業株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの第144期事業年度の第2四半期会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、旭コンクリート工業株式会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期財務諸表に対する結論を表明するために、四半期財務諸表に含まれる構成単位の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、構成単位の財務情報に関する四半期レビューの指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。